

情報理論とその応用学会との事業統合検討作業を開始

事業担当副会長 ATR 大橋正良

基礎・境界ソサイエティは、2009年12月の運営委員会において、情報理論とその応用学会(Society of Information Theory and its Application, SITA学会と略します)からの要請に基づき、同学会と基礎・境界ソサイエティとの事業統合に向けた検討作業に着手することを決定しました。

SITA学会は、シャノン理論や符号理論をはじめとする情報理論並びにそれに関連した幅広い応用分野の研究を推進する会員数400名余りの学会であり、1978年から毎年定期的なSITAシンポジウム開催を開始し、1985年から学会化されて現在に至っています< <http://www.sita.gr.jp/>>。主な活動として年1回の国内SITAシンポジウム(2009年は第32回を湯田温泉で開催)並びに隔年に国際シンポジウムISITAシンポジウム(2008年に第10回をAucklandで開催)を開催しています。基礎・境界ソサイエティの中では、情報理論専門委員会(IT)と関連が深く、毎年SITAシンポジウムと隣接しIT研/SITA/IEEE IT Japan chapter共催で“若手研究者のための講演会”を開催しています。

SITA学会は、これまで任意団体として活動を続けてきましたが、新法人移行に関する課題や、著作権の問題、国際化に伴う学会活動の新たな展開の必要性など、課題も次第に顕在化してきました。基礎・境界ソサイエティは、2008年夏より、SITA学会から打診を受け、同学会が基礎・境界ソサイエティに加入する可能性についてWGを設け、一年余り共同で検討を続けてきました⁽¹⁾。運営委員会で各種の検討結果が報告/審議され、後はSITA学会自身がデシジョンを下すだけとなりました。

SITA学会は、2009年10月臨時理事会で審議を行い、SITA学会を基礎・境界ソサイエティの新サブソサイエティへ移行することを目的に、1年以内にSITA学会を解散する「電子情報通信学会への事業統合案」を総会で会員に問うこととなりました。総会を前に基礎・境界ソサイエティからは、香田会長がソサイエティへの加入を促すレターをSITA学会に対して送付し、これまでSITAが培ってきたSITAスピリットを電子情報通信学会に移植して、更に大きく花開かせて頂きたいとの期待が述べられました。

SITA学会2009年度通常総会は、2009年12月3日、山口県湯田温泉ホテルかめ福において開催され、事業統合案について



図1 2009年12月SITA学会総会の様子

審議がなされ、活発な賛否両論の議論が交わされました(図1)。結果、同案は、全体の2/3を超える賛成票を獲得し、可決されました。

SITA学会の決議結果は、SITA山本会長からのレターによって12月運営委員会で報告され、運営委員会では直ちに統合に向けた作業を実施するSITA事業統合WGの設立が承認され、現在開催準備が整えられております。その直後に開催された理事会でも本件が報告され、青山会長名でSITA学会に対する歓迎文の発出が承認されました< <http://www.sita.gr.jp/documents/letter-from-IEICE.pdf>>。歓迎文中でも述べられていますが、現在新法人移行の課題に直面している学会・組織は数多くあり、その中でいち早く電子情報通信学会への合流を決断されたSITA学会のケースは非常にタイムリーであり、良好な先駆事例になるよう円滑な移行が期待されています。

今後は、同WGにおいて、基礎・境界ソサイエティにおけるSITAの受け皿となる新組織の調整、資金や会員の移行について検討を進め、1年をめどに移行を行う目標で活動を続けてゆく予定です。またこの検討の中で制度的な課題が出てくる際には、必要に応じて、基礎・境界ソサイエティ全体の問題としてとらえ、その解決を考えてゆきたく思っています。SITA学会の参加が、関

連研究専門委員会やサブソサイエティに良い意味での刺激を与え、基礎・境界ソサイエティが今後一層活性化してゆくことを期待しています。

参考文献

- (1) 香田徹：“基礎・境界ソサイエティの新たな試み”，Fundamentals Review, Vol.3, No.2, pp.2-3, 2009.



大橋正良 (正員)

1983京大大学院工学研究科電子工学専攻了. 博士(工学). 1983国際電信電話株式会社(現KDDI株式会社)入社. 移動衛星通信システム, 符号理論, IMT-2000関連技術の研究開発・標準化, ユビキタスネットワーク関連技術開発に従事. 2004KDDI研究所執行役員. 2008からATR(国際電気通信基礎技術研究所)メディア情報科学研究所所長. 基礎・境界ソサイエティ事業担当副会長(2008年~2009年).